

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400030		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい稲荷	ユニット名	1階
所在地	静岡県裾野市稲荷6-2		
自己評価作成日	平成28年2月14日	評価結果市町村受理日	平成28年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2291400030-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2291400030-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成28年2月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年の調査員の方に指導頂いた中に、各フロアの違が見られず自己評価がほとんど同じである。とありました。今回も打ち込みしながら思い返しましたが、去年よりも各フロアの取り組みが同じとなってしまっています。それに関してのアピール点となります。開所当初から全ての職員が全ての利用者様、業務の把握が出来る様に指導して来ました。その結果、今ではご家族対応から薬に関してもほぼ全員が同じ対応が出来る様になっています。日勤、夜勤業務がどの職員になっても今では困る事はありません。各フロアの違いをアピールする事も大切なのだと感じますが、今の事業所では全員が働きやすく前向きに頑張っているのが現状です。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から2年、地域に密着した事業所であることを管理者はじめ職員が絶えず意識し取り組んできた。幸い地域の理解も深く、ふれあいサロンの参加や催し物・畑仕事のボランティアの来所・散歩時のご挨拶等、利用者がホームの中だけの生活に終始することなく沢山の関わりが持てるよう協力が得られている。職員の意表を突くアイデアは、比較的ADLの高い利用者の“今にこそ生かさなければ”と次々企画され、行事計画書のファイルはいっぱいに膨らんでいた。熱意と愛情は家族にも伝わっているせいか、とても温かい家族アンケートを拝読した。家族や通りすがりの人の訪問で玄関は一日中賑やかだった。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、会社と事業所の理念を申し送り職員と唱和している。仕事の約束・介護の約束については特に定期的実践できているか個人面談にて確認をしている。	開所前に時間をかけて作り上げた理念は、オープニング当初からの職員には拠り所として浸透している。新しい職員にはそれらの経過や理解を深めるための会議を持って、全員で共有実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンには毎月参加している。最近ではご家族からの紹介で多くのボランティアが来訪。会社独自のボランティア名簿も活用しています。	開所時より地域連携を重視して、積極的に関われるよう取り組んできた。民生委員や家族の協力もあり一年目より更に二年目と交流が広がり、地域の人からバザー開催の提案も出ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域防災訓練、清掃へは昨年度と同様に参加させて頂いている。地域サロンの集いでは定期的に認知症の理解についてを発信させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず何らかの行事と合わせて開催するようにしています。会議開催を事前にお便りにてお知らせしている。今後はご家族にアンケートの配布も考えています。	民生委員や市職員・地域包括支援センター職員・家族等に加え行事と重なる場合には近隣の人の参加もあり、利用者の様子をスライドショーで紹介し、事業所が地域と身近にあることを啓蒙している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年度との違いとして、介護保険課から「教えて欲しい事がある」と言われるようになった。待機者数や行事開催について、また新規事業への取り組みについての相談も受けました。解らない事は必ず聞くようにしている。	開所時から様々に相談してきたため、今後の介護保険事業について意見を求められることもある。また、外国籍職員の言葉や記録についての困難事例を相談する等常に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はオートロックとなっており、利用者様は開錠出来ない様になっている。社内研修にて身体拘束については全員学んでいます。事業所では「ダメ! はダメ!」を職員教育に取り入れています。	身体拘束は社内研修で学び、出席できなかった職員には事業所内の研修でフィードバックしている。言葉の拘束に対しては日頃から否定語を使わない事や言葉の引き出しを多くすることを掲示し、意識付けを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が加害者になる可能性や虐待に至る前の芽に気付く方法等、社を挙げて取り組んでいる。日々の言葉使い、人に対しての無関心が起きない様に声掛けを強化している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度と同じく、成年後見人制度を利用している利用者様はいるが、研修としては行ってない。また、理解していない職員が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはたつぷりと時間を取り説明させて頂いている。特に事故が起きた時の事や退去に至る時、生前意向確認はご家族が理解し易い様に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の用意をしていますが、箱には一度も入っていた事は無い。クレーム・要望は直接管理者に伝えてくれます。早急な対応を心掛け、その後ご家族から満足の声を聞く事もあった。	家族は直接要望を申し出てくれる。用件によっては法人本部と相談して速やかに対応している。また家族の不安が予想される場合には管理者が前もって説明し、取り除くよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社で決められた面談以外にも必要に応じてや定期的に職員面談は行っています。どんな小さな事でも職員の意見を聞く姿勢を持ち、言いやすい雰囲気作りに努めています。	“利用者のいいとこ10”や“職員のいいとこ10”の取り組み、更にサンクスカードで“ありがとうの見える化”へと進化させ、面談のきっかけや職員それぞれが自信を持って働ける環境作りに役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内キャリアパス制度に添って行っている。また、有給制度の見直しや離職が無い職場を目指し職員教育にも力を注いでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修に出席して終わりではなく、現場に活かす為に参加した職員が他職員に伝える研修を行っている。毎回ではないが、時間外出勤として研修に出席させる努力もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社として、同業者と共催の研修を引き続き行っている。管理者だけではなく、中堅職員の研修も増えて来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前情報を早い段階に現場に提供する様にしている。全盲の方の受け入れをした時には職員に疑似体験をさせました。その方の情報を引き出す努力を怠りません。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後のご家族の喪失感にも寄り添います。なるべく多く足を運んで頂ける様に細かな変化や様子を報告します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何気ない会話や行動からも色々な情報を引き出します。職員にも情報共有し統一したケアに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般、散歩や買い物のほぼ全てにおいて利用者様の選択肢を重視しています。自身で選ぶ、決めるを大切にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来やすい雰囲気作りに努めています。本人と家族が安心して外出、外泊が出来る様に支援します。入居してからも家族の支援が必要。一緒に支援して行きましょうとお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたサービス事業所において邪魔したり、ご自宅の周辺を散歩したりする事もあります。	家族の許可のもと、友人の訪問等を歓迎している。家族にも利用者の意向を伝え、外出できるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う合わないと人間模様は様々ですが、レクリエーションを通じて関わりを持って頂いています。各フロアの交流も盛んに行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された方のご家族が時折り施設に来られる事もあります。退去となってもご本人様やご家族を気に掛け連絡を入れたり、病院へ面会にも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員だけによる思い込みを防ぎ、ご家族の参加するサービス担当者会議の開催を心掛けている。必要な時には職員が協力し個人ケアの出来る時間を設けている。	サービス担当者会議にて、利用者や家族の意向を共有している。介護計画書等で何気ない利用者の声をメモに取り、思いの意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生きて来られた道筋を探る努力をしています。馴染まれた服、写真、家具、食器などもご家族に協力して貰っている。家事や生活の知恵を職員も教えて貰っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の日々の申し送りを聞き逃す事無く把握に努めています。観察力や気付きの大切さを知る様に指導しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロア会議や必要な時にチーム全体で課題を共有している。必要であればご本人も出席して貰っている。利用者様本位の計画書が作成出来るように努めている。また、ご家族様にも満足感を与える様努力しています。	注意が必要な利用者には、個別介護計画記録からフロア会議やチームでの全体会議などを行い、本人の意向を24時間シートでアセスメントを取りプランニングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書の見直しを主目的として三ヶ月に一度のサービス担当者会議を行っている。課題、目標の進捗を説明し次回計画についての方針や方法を提案するように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の出来ない事より出来る事を見極める様に指導している。また、ご本人の希望や要望、ご家族の意向には可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園や小学校の生徒の来訪やコンビニ、スーパーへの買い物。多く外部との繋がりがあります。外出行事では公共の乗り物を使用する事もあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二度の定期往診の他、必要に応じて受診や往診をしている。契約時に嘱託医の説明をし納得して頂いている。医療と施設、施設とご家族の細かな申し送りをし支援している。	月に2度の定期往診が嘱託医によって行われている。医療と事業所との連携をご家族にも報告し、早目に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	嘱託看護師とはほぼ毎日連絡を取り情報共有をしている。24時間のオンコール体制を持ち、その都度指示が頂ける関係性を保っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き状況を担当看護師に聞いている。各病院の地域連携室職員とも顔合わせをする様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	この一年、事業所での看取りは無いが、昨年度の経験を職員はとても大切に考えています。ご家族の中にはグループホームでの看取りを意識されている方もいます。	事業所での看取りはないが、その体制はほぼ出来ている。現状での看取りは他の施設を紹介しているが、重度化に向けた方針は入居後に本人や家族に説明して同意を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半数以上の職員が普通救命講習を受けています。その内3名が上級救命を受けました。社内研修、外部研修等で今後も受けて貰い予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者様を巻き込んでの避難訓練を行っている。その内1回は夜間想定訓練です。地域消防署で開催する訓練にも職員を参加させている。	消防署との地域訓練では、災害備蓄品を活用し利用者や家族・職員・地域企業まで参加している。その様子は地域の広報に掲載されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方らしさを大切にし、その人が今まで培って来た事や生活歴を引き出したり、ご家族にお聞きする等して知ると言う事を大切にしている。知った上でその方に合った声掛けをさせて頂いている。	利用者にインフルエンザが発症したが、その際の行動指針など、プライバシー保護や個人情報への扱いについて文書化がされていない。	行動指針や研修・記録・マニュアルなど体制作りに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けや決め付けをせず自由に選ぶ事が出来る様な言葉かけや支援を心掛けている。職員と一緒に選んだり、AとBとどちらにしますか？等、選びやすい様に支援。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の時間を大切に考えています。食事(延食)や入浴(午後希望、時には夜間)もなどなるべく希望に添える様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服を職員と一緒に選ぶ事もあります。メイクやネイル等、利用者様が笑顔になる様な支援をしています。男性利用者様には髭剃りや整髪を自身で行える様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑からの収穫野菜、買い物支援から調理、味見や提供、片付けと食事を楽しむ事の一連の流れを職員と一緒にしています。また、目からも楽しめる様に色合いや盛り付け、食器にも気を使っている。	H <sub>2</sub> O補給ゼリーを取り入れ、一人ひとりの体調に合わせてなるべく摂取できるように工夫している。食事は見た目の工夫や色合いで季節感を出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、刻み食の対応や水分摂取の困難な方にはイオンゼリーの提供をしている。水分摂取量の把握はチェック表記入をしています。便秘解消についてはヨーグルトやオリゴ糖を活用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、週に一度来訪する口腔衛生士から指導を貰い毎食後のケアに活かしている。また、口腔体操を重んじて支援するように伝えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄リズムを探り時間で誘導するのではなくその方の行動や発信される合図を見逃さない様になっています。出来る限りトイレでの排泄をして頂き、意欲と自信を持って頂ける様に支援します。	言葉かけや誘導は利用者の状態により対応を変えている。記録により排泄リズムを把握しているため、上手に誘導が出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らない様に水分は勿論、乳製品や食物繊維を多く摂れる様に心掛けています。玄米やオリーブオイル、オリゴ糖の活用もしています。毎日の体操や散歩にも力を入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の意思を尊重しながら支援している。入浴剤を数種類用意し選んで貰う、季節によっては菖蒲やゆず湯なども楽しんで頂ける様考えています。	入浴が苦手な利用者には誘導する人やタイミングを変えたり、入浴剤で季節の香りを楽しめるような工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の年齢や体力に応じて午睡を取り入れています。快適に入眠して頂ける様に布団や空調、居室の灯りにも気を配り環境を整える様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故が起きない様、服薬前後に複数の職員でチェックをしている。又、薬の効能と副作用を職員全員が理解し共有をしている。服薬が変更になった際も利用者様の变化に気付く様に心掛けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般、ドライブ、外食、畑仕事、編み物、書道と様々な事を利用者様主体に皆で楽しんでいる。前年度より職員が挙げて来る行事計画が多くなりました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に一度、全利用者様をお連れし一泊旅行に行きます。個別の買い物、車椅子の方でも行ける様に事前にハード面の確認は必ず職員にさせている。天気の良い日は外気浴でもいいので外に出る事を優先しています。	山中湖へ10家族12名で一泊旅行に出掛けました。イルミネーションが見られる時に行ける場合は、夜勤の職員を同行させてでも行くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理をしている方が何名かいます。買い物支援の際に支払いがスムーズに行える様に支援します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方が何名かいます。間違いやトラブルが起きないように見守ります。必要に応じてご家族と電話で話せるように繋がります。年賀状や暑中お見舞いは写真付きでご家族に送ります。コメントは本人に書いて頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様が集う場所には季節や行事が分かる掲示物を貼っている。職員と一緒に作成した物が多い。空調、湿度、匂い、光等にも気を掛けている。	共用の空間は広く、空間の各箇所に数台の芳香剤があり、匂いに対する配慮がされていた。フロアに置かれた生花は月に2回は交換し、なるべく花を切らさないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席次に気を配ります。お一人お一人が居心地良く過ごして頂ける様にマッサージ器の導入やアロマオイルの活用もしました。ソファに横になり昼寝が出来る様にもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には布団、家具等馴染みの物を用意して頂きました。記念の家族写真や花瓶等の依頼もします。	居室は利用者の状態と家族の意向を配慮し、利用者にとって動きやすい部屋であるように工夫している。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に合わせたベットや椅子の高さに気を掛けています。夜間は廊下に足元灯を設置しトイレの位置が解り易いように張り紙をしたり工夫をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400030		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい稲荷	ユニット名	2階
所在地	静岡県裾野市稲荷6-2		
自己評価作成日	平成28年2月14日	評価結果市町村受理日	平成28年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2291400030-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2291400030-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成28年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>昨年の調査員の方に指導頂いた中に、各フロアの違いが見られず自己評価がほとんど同じである。とありました。今回も打ち込みしながら思い返しましたが、去年よりも各フロアの取り組みが同じとなってしまっています。それに関してのアピール点となります。開所当初から全ての職員が全ての利用者様、業務の把握が出来る様に指導して来ました。その結果、今ではご家族対応から薬に関してもほぼ全員が同じ対応が出来る様になっています。日勤、夜勤業務がどの職員になっても今では困る事はありません。各フロアの違いをアピールする事も大切なのだと感じますが、今の事業所では全員が働きやすく前向きに頑張っているのが現状です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、会社と事業所の理念を申し送り職員と唱和している。仕事の約束・介護の約束については特に定期的実践できているか個人面談にて確認をしている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンには毎月参加している。最近ではご家族からの紹介で多くのボランティアが来訪。会社独自のボランティア名簿も活用しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域防災訓練、清掃へは昨年度と同様に参加させて頂いている。地域サロンの集いでは定期的に認知症の理解についてを発信させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず何らかの行事と合わせて開催するようにしています。会議開催を事前にお便りにてお知らせしている。今後はご家族にアンケートの配布も考えています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年度との違いとして、介護保険課から「教えて欲しい事がある」と言われるようになった。待機者数や行事開催について、また新規事業への取り組みについての相談も受けました。解らない事は必ず聞くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はオートロックとなっており、利用者様は開錠出来ない様になっている。社内研修にて身体拘束については全員学んでいます。事業所では「ダメ!はダメ!」を職員教育に取り入れています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が加害者になる可能性や虐待に至る前の芽に気付く方法等、社を挙げて取り組んでいる。日々の言葉使い、人に対しての無関心が起きないように声掛けを強化している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度と同じく、成年後見人制度を利用している利用者様はいるが、研修としては行ってない。また、理解していない職員が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはたつぷりと時間を取り説明させて頂いている。特に事故が起きた時の事や退去に至る時、生前意向確認はご家族が理解し易い様に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の用意をしていますが、箱には一度も入っていた事は無い。クレーム・要望は直接管理者に伝えてくれます。早急な対応を心掛け、その後ご家族から満足の声を聞く事もあった。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社で決められた面談以外にも必要に応じてや定期的に職員面談は行っています。どんな小さな事でも職員の意見を聞く姿勢を持ち、言いやすい雰囲気作りにも努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内キャリアパス制度に添って行っている。また、有給制度の見直しや離職が無い職場を目指し職員教育にも力を注いでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修に出席して終わりでは無く、現場に活かす為に参加した職員が他職員に伝える研修を行っている。毎回ではないが、時間外出勤として研修に出席させる努力もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社として、同業者と共催の研修を引き続き行っている。管理者だけではなく、中堅職員の研修も増えて来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前情報を早い段階に現場に提供する様にしている。全盲の方の受け入れをした時には職員に疑似体験をさせました。その方の情報を引き出す努力を怠りません。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後のご家族の喪失感にも寄り添います。なるべく多く足を運んで頂ける様に細かな変化や様子を報告します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何気ない会話や行動からも色々な情報を引き出します。職員にも情報共有し統一したケアに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般、散歩や買い物のほぼ全てにおいて利用者様の選択肢を重視しています。自身で選ぶ、決めるを大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来やすい雰囲気作りに努めています。本人と家族が安心して外出、外泊が出来る様に支援します。入居してからも家族の支援が必要。一緒に支援して行きましょうとお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたサービス事業所にお邪魔したり、ご自宅の周辺を散歩したりする事もあります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う合わないと人間模様は様々ですが、レクリエーションを通じて関わりを持って頂いています。各フロアの交流も盛んに行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された方のご家族が時折り施設に来られる事もあります。退去となってもご本人様やご家族を気に掛け連絡を入れたり、病院へ面会にも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員だけによる思い込みを防ぎ、ご家族の参加するサービス担当者会議の開催を心掛けている。必要な時には職員が協力し個人ケアの出来る時間を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生きて来られた道筋を探る努力をしています。馴染まれた服、写真、家具、食器などもご家族に協力して貰っている。家事や生活の知恵を職員も教えて貰っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の日々の申し送りを聞き逃す事無く把握に努めています。観察力や気付きの大切さを知る様に指導しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロア会議や必要な時にチーム全体で課題を共有している。必要であればご本人も出席して貰っている。利用者様本位の計画書が作成出来るように努めている。また、ご家族様にも満足感を与える様努力しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書の見直しを主目的として三ヶ月に一度のサービス担当者会議を行っている。課題、目標の進捗を説明し次回計画についての方針や方法を提案するように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の出来ない事より出来る事を見極める様に指導している。また、ご本人の希望や要望、ご家族の意向には可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園や小学校の生徒の来訪やコンビニ、スーパーへの買い物。多く外部との繋がりがあります。外出行事では公共の乗り物を使用する事もあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二度の定期往診の他、必要に応じて受診や往診をしている。契約時に嘱託医の説明をし納得して頂いている。医療と施設、施設とご家族の細かな申し送りをし支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	嘱託看護師とはほぼ毎日連絡を取り情報共有をしている。24時間のオンコール体制を持ち、その都度指示が頂ける関係性を保っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き状況を担当看護師に聞いています。各病院の地域連携室職員とも顔合わせをする様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	この一年、事業所での看取りは無いが、昨年度の経験を職員はとても大切に考えています。ご家族の中ではグループホームでの看取りを意識されている方もいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半数以上の職員が普通救命講習を受けています。その内3名が上級救命を受けました。社内研修、外部研修等で今後も受けて貰い予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者様を巻き込んでの避難訓練を行っている。その内1回は夜間想定訓練です。地域消防署で開催する訓練にも職員を参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方らしさを大切にし、その人が今まで培って来た事や生活歴を引き出したり、ご家族にお聞きする等して知ると言う事を大切にしている。知った上でその方に合った声掛けをさせて頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けや決め付けをせず自由に選ぶ事が出来る様な言葉かけや支援を心掛けている。職員と一緒に選んだり、AとBとどちらにしますか？等、選びやすい様に支援。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の時間を大切に考えています。食事(延食)や入浴(午後希望、時には夜間)もなどなるべく希望に添える様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服を職員と一緒に選ぶ事もあります。メイクやネイル等、利用者様が笑顔になる様な支援をしています。男性利用者様には髭剃りや整髪を自身で行える様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑からの収穫野菜、買い物支援から調理、味見や提供、片付けと食事を楽しむ事の一連の流れを職員と一緒にを行っています。また、目からも楽しめる様に色合いや盛り付け、食器にも気を使っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、刻み食の対応や水分摂取の困難な方にはイオンゼリーの提供をしています。水分摂取量の把握はチェック表記入をしています。便秘解消についてはヨーグルトやオリゴ糖を活用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、週に一度来訪する口腔衛生士から指導を貰い毎食後のケアに活かしている。また、口腔体操を重んじて支援するように伝えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄リズムを探り時間で誘導するのではなくその方の行動や発信される合図を見逃さない様にしています。出来る限りトイレでの排泄をして頂き、意欲と自信を持って頂ける様に支援します。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らない様に水分は勿論、乳製品や食物繊維を多く摂れる様に心掛けています。玄米やオリーブオイル、オリゴ糖の活用もしています。毎日の体操や散歩にも力を入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の意思を尊重しながら支援している。入浴剤を数種類用意し選んで貰う、季節によっては菖蒲やゆず湯なども楽しんで頂ける様考えています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の年齢や体力に応じて午睡を取り入れています。快適に入眠して頂ける様に布団や空調、居室の灯りにも気を配り環境を整える様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故が起きない様、服薬前後に複数の職員でチェックをしている。又、薬の効能と副作用を職員全員が理解し共有をしている。服薬が変更になった際も利用者様の変化に気付く様に心掛けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般、ドライブ、外食、畑仕事、編み物、書道と様々な事を利用者様主体に皆で楽しんでいる。前年度より職員が挙げて来る行事計画が多くなりました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に一度、全利用者様をお連れし一泊旅行に行きます。個別の買い物、車椅子の方でも行ける様に事前にハード面の確認は必ず職員にさせている。天気の良い日は外気浴でもいいので外に出る事を優先しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理をしている方が何名かいます。買い物支援の際に支払いがスムーズに行える様に支援します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方が何名かいます。間違いやトラブルが起きないように見守ります。必要に応じてご家族と電話で話せるように繋がります。年賀状や暑中お見舞いは写真付きでご家族に送ります。コメントは本人に書いて頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様が集う場所には季節や行事が分かる掲示物を貼っている。職員と一緒に作成した物が多い。空調、湿度、匂い、光等にも気を掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席次に気を配ります。お一人お一人が居心地良く過ごして頂ける様にマッサージ器の導入やアロマオイルの活用もしました。ソファに横になり昼寝が出来る様にもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には布団、家具等馴染みの物を用意して頂きました。記念の家族写真や花瓶等の依頼もします。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に合わせたベットや椅子の高さに気を掛けています。夜間は廊下に足元灯を設置しトイレの位置が解り易いように張り紙をしたり工夫をしている。		